

道連ニュース

2018年12月号 No.149

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

J Aグループ北海道と北海道生協連が連携協定締結 ～全国で始めて！協同組合理念に基づき連携関係を活発化～

10月31日、北農ビルに於いて、J Aグループ北海道と北海道生協連は「相互連携協力の推進に関する協定」を締結しました。相互に協力が可能な食料・農業・環境・福祉・地域生活などの分野で連携を深め、地域課題の解決にむけた取り組みを推進していきます。

協定書には、J A中央会・J A信連・ホクレン・J A共済連・厚生連・道生協連の各代表が署名し、J Aグループと北海道生協連との総合的な連携活動のスタートとなりました。

これまでも両者は、北海道生協連が2016年の連続台風被害の時に、農業復旧のための募金を集めた他、金子勝・堤未果講演会を共催で開催・J Aグループは北海道生協連が事務局を担っている「子ども食堂北海道ネットワーク」に参加している複数の子ども食堂にお米を無償提供するなど個別の連携活動を進めてきまし

たが、今回の包括協定締結により、両者の強みを生かし、活動の広がりや活動の深めを推進することになりました。

もっとも重視する活動テーマとして国連が2015年に採択した「持続可能な開発目標SDGs」を掲げ①誰もが安心して暮らし続けられる地域社会への貢献②子どもの居場所づくりを推進する子ども食堂への活動支援③生活習慣病及び介護予防など健康寿命を伸長する高齢者福祉活動④食の安全・安心、安定供給に関する啓発・要請活動⑤SDGsに関する社会・経済情勢を学習する公開講座の共催⑥その他、本協定の目的を達成するために必要と認めて合意した事項の6つを当面の連携協力事項として、具体的な取り組みを検討していく方針です。



北海道胆振東部緊急支援募金は11月9日現在、59生協から207,072,025円の募金がよせられました。

仮設住宅入居や自治体の復旧スピードが早まっていることから、予定を早め、11月13日(火)JA北海道中央会を通じて被災された農業生産者への支援金1億円の目録をお渡ししました。残り1億円は11月22日以降被災自治体へ義捐金及び支援金としてお渡ししました。(厚真町・安平町・むかわ町。日高町・平取町・北広島市、12月に札幌市・北海道)



平成30年度灯油意見交換会に参加 及び道・北海道経産局の要請行動報告

11月1日、札幌第1合同庁舎にて、北海道地域灯油意見交換会が開催され、元売、石油連盟、経産省他の参加のもと、石油流通業をとりまく状況、灯油需給、灯油価格についての説明があり、「当面原油高騰の上昇圧力は続く」「業界としては努力している」「コストを反映しており、小売価格は販売店の判断」「価格は市場の判断」と従来の説明の域はでませんでした。意見交換では、11月に入り、100円超す価格の状況から、灯油価格の見通し、灯油価格高騰への抑制策、地域間格差の是正、福祉灯油の実施に関し、消費者団体からは、道連、コープさっぽろ、北海道消費者協会、地域消費者会の方が、質問意見を述べました。最後に、説明回答が長く、意見交換になっていない運営について改善の意見を要請しました。



11月14日、コープさっぽろ組合員理事・活動部職員参加のもと、道の保健福祉部へ福祉灯油制度を

実施する自治体拡大の要請を行いました。過去162市町村が実施していたが、現状96市町村に



減少したことは、道も把握しており、拡大にむけ、なんらかのアクションを頂くことに関し賛同いただきました。北海道経済産業局要請では、資源燃料課長に対応頂き、灯油価格抑制に関する施策の実施（消費者への軽減、農業運輸業への助成、過疎地の灯油輸送への助成など）と「灯油狙い撃ち」の元売の仕切り価格決定に関する実情の調査・改善、過疎地SSの対策などを要請しました。灯油価格の高騰に関しては、原油相場上昇、円安での理由を追認した回答でしたが、上げ過ぎ、下げ渋りなどの状況については注視するべく対応しますとのことでした。また、11月20日北海道環境生活部へ消費生活条例による価格安定対策の施策を要請いたしました。今後とも、灯油価格の動向を引き続き、注意するとともに、福祉灯油実施などの要請を強めていきます。

生活クラブ

わくわくまったり

10月28日(日)札幌コンベンションセンターで「わくわくまったり」を開催しました。前日札幌はゲリラ豪雨に見舞われ、けたたましく警報のアラームが鳴り続けていましたが、午後からは雨もすっかり上がり、会場設営もバッチリ終わりまつり本番を迎える準備が整いました。わくわくまったりは毎年秋が深まり冬の足音が聞こえるこの時期に開催していますが、会場は熱気で溢れていました。今年に来場者数は約3500人と昨年より多く、最後まで人の波が途絶えることはありませんでした。今年のまつりのテーマは「次世代につなげる生活クラブ」としました。生活クラブは子育て世代の組合員が増え、戸別配達システムを選択している人が多いので、人と人とのつながりがあまり持ていません。そこで、このまつりに来ると生活クラブの事が全てわかる！また世代間交流の場となるよう意識して組み立てました。会場全体を「おもちゃ箱」をイメージして作り、看板にはチェック柄を取り入れ統一感を出しました。去年までの模擬店は「ふーどまるしえ」とネーミングを変えました。各支部、生産者はメニューを決めるところから悪戦苦闘し



ていましたが、当日はどのまるしえも列ができ完売も続出していました。おでんやたこ焼き・ケチャップ焼き



そば、淹れ立てコーヒーなど18のメニューが来場者のお腹を満たしていました。「くらぶまるしえ」は消費材販売のコーナーですが、各支部の組合員が自分たちでテーマと販売するものを決め、レイアウトにも力が入っていました。いつも人気のあそびコーナーは、ヨーヨー釣りや魚つりのほか木の砂場、バルーンアートもあり笑顔がたくさん見られました。生活クラブの顔と言える展示説明車「あみーか」を会場の中心に配置しいつも自分たちが行っている、地域に生活クラブを知ってもらう活動を来場者に見てもらうことができました。ステージは組合員のご夫婦のジャズセッションや食育ヒーロー「ぬか漬けマン」のコントやクイズで大人も子どもも大いに盛り上がりました。生活クラブの運動をアピールする「くるとわかるコーナー」も盛況で憲法の紙芝居やSDGsのアピールなども行いました。まつりに関わる全ての人がひとつになり、たくさん話ることができ、内外に生活クラブを知ってもらうことができました。